

第 2 期（2025 年）奨学生募集要項送付の件

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

弊財団は、農園芸業をめぐる諸問題の解決に向け取組む研究者、技術開発者への助成や日本の大学・大学院において、母国の諸問題解決に向け勉学・研究に励む外国人留学生への助成等を通じ、世界的な農園芸業の課題解決に寄与することを目的に設立されました。

この度、第 2 期生奨学生の募集を開始することとなりました。将来、世界的な農園芸業の課題解決に貢献したいという強い意識や志を持った学生を支援する給付型の奨学金となります。

応募対象は、2025 年 4 月 1 日時点で、募集要項に記載の国籍を有し、「(1) 農学等に関わる学部
に在籍している外国人留学生」、または「(2) 農学等の分野を専攻し研究に従事する外国人留学生」が対象となります。

第 2 期奨学生の募集要項を同封させていただきました。御校の学生の皆さまに、告知いただければ幸甚でございます。その他、ご不明な点等がございましたら、下記までご連絡お願いいたします。

敬具

記

<同封書類>

- | | |
|-----------------------|-------|
| ・パンフレット | 1 部 |
| ・第 2 期（2025 年）奨学生募集要項 | 1 部 |
| ・応募申請書、推薦書 | 各 1 部 |

その他、ご不明な点等がございましたら、下記までご連絡お願いいたします。

（お問い合わせ先）

一般財団法人サカタアグリ財団 事務局（事務局：鈴木・金子）
TEL：045-945-8222（070-1565-0076）、FAX：045-945-8864、
メールアドレス：akihiro.suzuki@ sakata-agriculture.or.jp
yumi.kaneko @ sakata-agriculture.or.jp

一般財団法人サカタアグリ財団

第2期（2025年）外国人留学生奨学金募集要項

本奨学金は、給付型（返済不要）となります。農学等に関わる専門的な知識や研究を通じて、農業の振興・発展のみならず、食糧危機や環境破壊等、母国や世界の社会的な課題解決に向け貢献したいという高い志を持った方を支援する奨学金給付プログラムとなります。なお、ここでいう農学等とは、別紙1の文部科学省の定める「学科系統分類表」に定める農学・農芸化学・農業工学・農業経済学をいう。

1. 応募資格

（1）応募対象者（2025年4月1日時点のもの）

次に掲げる要件をすべて満たすものとする。

- ①対象国の国籍を有し、在留資格が「留学」であること。
- ②指定校の学士過程、修士課程、博士課程に在籍し、以下のいずれかの要件を満たしていること。但し、学士過程は大学2年生以上であること。
 - a. 農学等に関わる学部 に在籍している者。
 - b. 農学等の分野を専攻し研究に従事する者
- ③2025年4月1日時点で、30歳以下であること。
- ④日本語での日常的なコミュニケーションができること（日本語能力検定N3以上、または同等以上）。また、交流会等のイベントに参加できること。
- ⑤学業に対して熱意をもって取り組み、大学・大学院での研究・活動を通じて身に付けた専門知識等を活かし、将来、母国の発展に寄与したいという強い意識や高い志を有していること。

（2）対象国

東南アジア諸国、インド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュ、ネパール、ブータン、モンゴル、中南米諸国、アフリカ諸国

※東南アジア諸国とは、東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟国をいう。

※中南米諸国、アフリカ諸国とは、外務省ホームページに記載された国をいう。

（3）指定校

現在の指定校は、以下の通りとなります。

北海道大学、弘前大学、山形大学、岩手大学、東北大学、新潟大学、宇都宮大学、茨城大学、筑波大学、信州大学、東京農工大学、千葉大学、静岡大学、名古屋大学、岐阜大学、三重大学、京都大学、神戸大学、岡山大学、広島大学、鳥取大学、島根大学、山口大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、九州大学、佐賀大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学

明治大学、東京農業大学、玉川大学、法政大学、日本大学、名城大学、近畿大学

2. 採用予定者数

本奨学金の採用予定者数は、3名とする。

3. 応募方法

（1）応募方法

応募者は、応募書類を作成し在籍する大学・大学院を経由し、メールまたは郵送にて提出するものとする。

なお、応募書類は、すべて日本語表記とする。

※応募者個人から直接出願は受け付けておりません。在籍する大学・大学院の学生課や留学生課など奨学金を担当する部署を通じて出願してください。

（2）応募書類

本奨学金の選考を希望する者は、下記の応募書類を提出しなければならない。なお、応募者より提出された応募書類は、応募者の希望の有無に関わらず、返却しないこととする。

- ①奨学生願書
- ②学生証（写し）
- ③成績証明書（原本）
- ④所属大学・大学院の学長等による推薦書（原本）
- ⑤外国人登録証明書、パスポート等、在留資格が記載された書面（表裏の写し）

（３）スケジュール

応募期間は、2025 年 4 月 1 日（火）～2025 年 5 月 16 日（金）とする。

一次選考（書類審査）：2025 年 5 月、二次選考（面接審査）：2025 年 6 月以降の予定。

なお、各選考の合格者は、在籍大学・大学院を通じて通知する。

（４）選考料

本奨学金の選考料は無償とする。なお、二次選考は、当財団指定の方法によるオンライン形式の面接を予定している。対面形式の面接を実施する場合、選考会場までの交通費は、公共の交通機関を利用した場合に限り、自宅から選考会場までに要した費用を支給する。

4. 奨学金の給付

（１）奨学金の給付額

月額 100,000 円を給付する。

（２）給付期間

- ①学士過程：2025 年 4 月から正規の学士過程終了月まで
- ②修士課程：2025 年 4 月から正規の修士過程終了月まで（最長 2 年間）
- ③博士課程：2025 年 4 月から 2 年間（但し、2 年以内に正規の博士課程終了月を迎える場合は、その月まで）

（３）給付方法

日本国内に本店・支店を有する金融機関の口座に、3 ヶ月分を一括で振込みにて給付する。なお、3 ヶ月分一括で 25 日（金融機関が休日の場合は、前日）に振込みにて給付する。

（４）その他手続き

奨学生は、奨学金の振込先となる金融機関の口座情報（本人に限る）を所定の方法により、財団が指定する期日までに届出ることとする。

5. 奨学金の給付停止

下記に該当した場合、理事長の承認を得て、奨学金の給付を停止する。

- ①在留資格が「留学」でなくなったとき
- ②進級ができなかったとき
- ③休学又は長期に渡って欠席したとき
- ④停学その他の処分を受けたとき
- ⑤退学したとき
- ⑥学業成績が不良になったとき
- ⑦他の団体等からの奨学金を受給する（支給される）こととなったとき

※日本政府、日本学生支援機構、地方自治体及び国連国際交流団体、または所属する大学・大学院からの奨学金は除く。

- ⑧上記のほか、奨学生として適当でない事実があったとき

6. 奨学生の義務

- ①毎年 4 月末日までに、当財団が定めるレポート、直近の成績証明書、在学証明書、在留資格が記載された書面（写し）を提出しなければならない。
- ②特段の事情があると認められる場合を除き、財団が行う交流会に出席しなければならない（年に 1 回程度

を予定)。

- ③本人の氏名、住所、振込口座情報等、奨学金給付の継続にあたって必要となる事項が変更になった場合、当財団事務局に届出ることとする。
- ④他大学・大学院への留学・ボランティア活動等による休学等、大学・大学院を一時的に休学する場合は、速やかに当財団事務局に届出ることとする。
- ⑤自薦または他薦等により、他団体の奨学金制度を受給することとなった場合、速やかに当財団事務局に届出ることとする。

7. 個人情報の取扱いについて

当財団は、応募の際に提出された個人情報は、奨学生の選考以外には一切使用しないこととする。

8. 問い合わせ先

〒224-0041 横浜市都筑区仲町台 2-7-1

一般財団法人 サカタアグリ財団 事務局（事務局：鈴木・金子）

TEL：045-945-8222（070-1565-0076）

メールアドレス：akihiro.suzuki@sakata-agriculture.or.jp

yumi.kaneko@sakata-agriculture.or.jp

<別紙1>

文部科学省「学科系統分類表」より抜粋

1. 大学

(1) 農学

01 農学 02 繊維農学 03 園芸学 04 園芸農学 05 造園学 06 養蚕学 07 農業生物学 08 農林生物学 09 植物防疫学 10 草地学 11 暖地農学 12 経営農学 13 農業生産管理学 14 総合農学 15 環境緑地学 16 環境保全学 17 蚕糸生物学 18 応用生物科学 19 応用生物学 20 農業生産学 21 総合農業科学 22 農業生産科学 23 緑地（・）環境学 24 植物資源学 25 生物環境制御学 26 応用植物科学 27 植物資源科学 28 造園科学 29 農業生命科学 30 応用動物科学 31 資源生物科 32 植物バイオサイエンス学 33 バイオサイエンス学 34 緑地環境科学（類） 35 共生バイオサイエンス学 36 農学生命課程 37 動物資源科学 38 資源生命科学 39 植物生産環境科学 40 生命農学 41 生産農学 42 環境農学 43 生物機能科学 44 アグリサイエンス学

(2) 農芸化学

01 醸造学 02 農産製造学 03 農芸化学 04 農業化学 05 農産化学 06 園芸化学 07 食糧化学 08 食糧化学工学 09 食品製造工学 10 生物化学工学 11 食品学 12 食品化学 13 食品工学 14 食品工業化学 15 畜産食品化学 16 畜産食品工学 17 食品生産化学 18 生物資源科学 19 資源生物科学 20 食品科学 21 生物資源化学 22 生物機能化学 23 応用生物化学（課程） 24 食品科学工学 25 生物資源食糧化学 26 醸造科学 27 食品生物科学 28 食品生命科学（課程） 29 食品生命学 30 食品香粧学 31 応用生命科学課程 32 植物生命科学 33 食香粧化学 34 食糧産業学

(3) 農業工学

01 農業工学 02 農業水産工学 03 農業生産工学 04 農業土木学 05 農業機械学 06 農業開発工学 07 畜産土木工学 08 農業システム工学 09 農業環境工学 10 農業生産環境工学 11 国際農業開発学 12 生産環境工学 13 生産環境情報学 14 環境管理工学 15 生物環境工学 16 生物生産環境学 17 食料生産環境工学 18 生産科学 19 地域農業工学 20 生物生産学

(4) 農業経済学

01 農業経済学 02 農村経済学 03 農政経済学 04 農林経済学 05 酪農経済学 06 拓殖学 07 農業拓殖学 08 農業経営学 09 食品経済学 10 園芸経済学 11 産業経営学 12 国際資源管理学 13 食料・環境経済学 14 ファームビジネス学 15 フードビジネス学 16 環境マネジメント学 17 アグリビジネス学 18 食料資源経済学 19 食料環境政策学 20 食品ビジネス学 21 食資源開発学類 22 フードマネジメント学類 23 食農ビジネス学 24 フードサービスマネジメント

2. 大学院

(1) 農学

01 農学（系） 02 植物防疫学 03 農業生物学 04 農林生物学 05 園芸農学 06 園芸学 07 暖地農学 08 養蚕学 09 繊維農学 10 草地学 11 造園学 12 蚕糸生物学 13 農林学 14 環境緑地学 15 熱帯農学 16 環境保全学 17 応用生物科学 18 緑地・環境学 19 農学国際 20 国際環境農学 21 応用生物学 22 緑地環境科学 23 基礎生物学 24 生産科学 25 応用生命科学 26 環境農学 27 亜熱帯農学 28 食農科学 29 国際連携農学生命科学 30 デザイン農学 31 北方圏農学

(2) 農芸化学

01 農芸化学 02 食糧化学 03 農産製造学 04 農業化学 05 生物化学工学 06 農産化学 07 食糧化学工学 08 園芸化学 09 食品工学 10 食品工業化学 11 食品学 12 応用生物化学 13 食品生産化学 14 生化学制御学 15 食品栄養（科）学 16 応用生命工学 17 食品科学 18 食品安全健康学 19 食香粧化学

(3) 農業工学

01 農業工学 02 農業生産工学 03 農業土木学 04 農業開発工学 05 農業機械学 06 農業生産管理学 07 農林工学 08 国際農業開発学 09 農業システム工学 10 農業生産環境工学 11 農業環境工学 12 生物・環境工学 13 生産環境工学 14 先端農業技術科学

(4) 農業経済学

01 農業経済学 02 農政経済学 03 農林経済学 04 農村経済学 05 経営農学 06 農業経営学 07 園芸経済学 08 農業経営情報科学 09 生物資源経済学 10 農業（・）資源経済学 11 資源環境経済学 12 食品流通安全管理 13 農林共生社会科学